

# 独立行政法人農業生物資源研究所 NIASオープンカレッジ (共催: 知の市場・早稲田大学規範科学総合研究所)

**問題点:** 農業生物資源研究所の研究成果を社会に発信する機会が不足している  
生物資源の改良の歴史や社会貢献に関する情報発信が、充分とは言えない



**企画目的:** メディアの集積地である東京において農業生物資源研究所の研究成果を定期的・効率的に情報発信する  
生命科学リテラシー向上を通じた社会貢献

## <企画内容>

平成22年9月から12月にかけて、東京の四ッ谷(主婦会館)でNIASオープンカレッジを開催した(毎週木曜日)。メディア関係者、社会人、学生など63名(登録参加数)が受講し、当研究所の最新研究成果や遺伝子組換えの情報など、様々なテーマを基に講義を行った。各講義の終わりには、受講者との意見交換の場が設けられ、講義内容に関して活発な意見交換が行われた。

## ・講義の様子



## ・講義シラバス(平成22年度)

科目構成	No.	講義名	開催日	講師名	所属	
はじめに	1	遺伝資源と作物開発の歴史	9月2日	石毛光雄	農業生物資源研究所	
	2	植物のゲノム研究の実際	9月9日	佐々木卓治		
	総論: 研究概要と社会の動向	3	昆虫と動物の遺伝資源	9月16日		新保博
		4	世界の食料需給と食料確保のための世界戦略	9月30日		三石誠司
生物資源と遺伝資源	5	植物の多様な遺伝資源の収集と保存	10月7日	河瀬真等	農業生物資源研究所	
	6	遺伝資源と放射線ガンマーフィールドは宝の山ー	10月14日	西村 実		
	7	多様な昆虫の機能とその害虫制御への展開	10月21日	野田博明		
	8	イネにみる作物の品種改良	10月28日	矢野昌裕		
多様な活用の動向	9	環境保全型農業を実現する技術の開発	11月4日	川崎達次郎	農業生物資源研究所	
	10	昆虫利用の新展開	11月11日	木内信		
	11	動物性タンパク質の供給から医薬分野への貢献まで	11月18日	栗原光規		
	12	耐病性作物の開発	11月25日	飯沼夫		
	13	植物と微生物の共生	12月2日	林 誠		
	14	機能性農作物の開発	12月9日	高岩文雄		
おわりに	15	遺伝子組換え生物等の安全性確保のための法律とサイエンス・コミュニケーション	12月16日	田部井豊		

## <企画成果と今後の予定>

約4ヶ月、合計15回の講義を修了した参加者(修了証発行者)は29名であり、修了者比率は申込者数の46%となった。参加者の主な意見は以下の通りであり、概ね高い評価を得ている。来年度については、開催運営を広報室に変更し、秋から15回を開催する予定であり、今後さらに多くの一般参加者が得られるように取り組む予定である。

## <参加者の感想と主な意見>

- ・知らないこと、ぼんやり理解していたことが明らかになって、参加して良かったです。
- ・「野生のイネが、栽培イネが失ってしまった有用な形質を持っているかもしれない」という話しは、非常に興味深かった。
- ・講師自身の研究のお話しに吸い込まれました。研究者の熱意が伝わりました。
- ・日頃漠然と考えていたことを数字で的確に説明していただき、良く理解できました。また、先生のお話を聞きたいと思いました。
- ・昆虫研究の重要性和先端研究の一端を垣間見たようで、大変興味を覚えました。
- ・DNAマーカーを使ったイネの遺伝育種法が良く分かりました。
- ・農業と食料生産のために、害虫防除がどのように展開、研究されているか良く理解できました。
- ・畜産業の研究が進んでいることを知りました。今後、動物を利用して医薬分野への発展を希望します。
- ・遺伝子組換え農作物のほ場見学や草取り体験などを通して、遺伝子組換え技術を考えることは重要と思いました。
- ・講義で使用した資料を公表していただければ、高校生の教材に活用したいです。
- ・講義中に十分理解できない点もあるので、配付資料に図表以外に説明書きを入れて欲しいです。
- ・その他、運営上照明や音響に関して改善の意見があった。



遺伝子組換え研究推進室(田部井、石川)  
問い合わせ先: 029-838-7431, kenkyu-suishin@nias.affrc.go.jp